



いぶき



主体性

校長 千葉 栄美

今年度の学校教育目標は「主体性」という一語です。先生方には生徒につけたい「主体性」とは何か、そしてそのためにどのような活動をするのか考えてもらいました。ある先生は授業中の発言を引き出すこと。ある先生は掃除をしっかりとできる生徒を育てること。ある先生は本気で探究活動をさせたい。等と答えてくれました。勉強でも、行事の場面でも、部活動でも何でもいいと思っています。やらされるのではなく、主体的に自ら考え、行動をすることではか人生は切り拓けません。

今年度の大湊高校は生徒の中にある「主体性」を引き出しそれを育てることを一番の目標として進んでいきます。

保護者の皆様にお願いです。やがて家を出ていくお子さんを家庭でも同様に「主体性を持った人間」として扱って、育ててください。具体的にお願したいのは一つだけです。お子さんと話をする際は、「どうしたいのか」「どうしてそう思うのか」を丁寧に聞いてあげてください。本人の想いをしっかりと語らせてください。

学校でも面談の際は「どうした?」「どうしたい?」「どんな支援が必要なの?」と聞くことを先生方にお願ひしています。

自ら考え語ることで、生徒は育っていきます。

すぐには変わらないかもしれませんがそれでも私たちが接し方を変えることで、生徒の主体性を育てることがきっとできるはずだと私は信じています。今年度も学校教育活動への理解と応援をどうかよろしく願ひします。



PTA会長として

PTA会長 川村 健

今年度、PTA会長の職に就かせていただくことになりました川村健と申します。

昨年まで年次委員長を務めておりましたが、コロナ禍の中、自分の思うような活動はできませんでした。

4月、5月と高校PTA連合会会議や、早期採用活動要請、下北地区統合校の第二期実施計画等、様々な会議や話し合いに参加しておりますが、内容の把握に追われ、まだまだ子供たちのために勉強していかなければなりません。

今年度も油断できない状況は続きますが、できる限りの活動を、先生方や、役員の方々、そして保護者の皆様と力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますのでご協力賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



※PTA引継ぎ式にて

令和四年度 PTA役員紹介

- 会長 川村 健
- 副会長 和田康明 加藤文文 高坂一弘
加藤聖子(教頭)
- 監事 菊池正彦 野澤恵理 山崎 愛
- 三年次委員長 玉谷一徳
- 副委員長 菊池次人 橋本裕子
- 二年次委員長 種澤博之
- 副委員長 山本貴稔 大森 明 大山美奈
- 一年次委員長 秋田智人
- 副委員長 小野一彦 窪田英史

P T A 総会開催

四月十六日にPTA総会が開かれました。前PTA会長の傳法薫様の退任に伴い、新会長として川村健様が就任しました。コロナ禍による活動が不透明ですが、総会を通じて、新体制として進めることを進めていく気概を感じました。

また、PTA総会に先立ち、奨学金に関する講演会と授業参観も開催されました。講演会へは六十名ほどの保護者が参加し、真剣なまなざしで講師の講演に耳を傾けていました。さらに授業参観では、感染症対策の一環で廊下からの参観でしたが、授業での生徒の様子をつぶさに見つめていました。コロナ禍において、間近で学校の様子を紹介する機会は少ない中で有意義な時間だったと思います。



※多くの保護者が参加（4月16日 体育館にて）



※授業参観風景（上段） 奨学金に関する講演会（下段）

花のある生活と共に～花壇整備ボランティア～

「花のある生活」は、気持ちも豊かに、そして普段の生活に彩りを与えてくれるものになります。去る五月十四日に、PTA花壇整備ボランティアを開催しました。感染症対策もあり、保護者の参加を断念しましたが、生徒二十三名で実施しました。当日は小雨模様からの作業開始でしたが、生徒の心がけもあり天候が回復しました。綺麗に整備されたプランターは、現在生徒玄関前に設置され、見る人の目に留まっています。

また、花壇整備と同時に男子生徒を中心に、生徒会館の裏手の側溝の泥上げも行いました。昨秋からの溜まったヘドロを汗だくになりながら取り除いていました。

花壇整備を含め、学校周辺の美化活動に少しでも貢献できたのではないかと思います。



新生活スタート

SPTA入会式

四月七日、入学式後にPTA入会式が開かれました。今後、様々な場面で会員の皆様が必要になります。入会式をスタートとしてPTA活動を盛り上げましょう。



編集後記

今年度、「いぶき」編集に携わることになりました葛西大介と申します。昨年度は、コロナ禍の影響が長引き、思うような活動はできませんでした。しかし、今年度は状況を伺いつつ、様々な活動ができることを期待したいと思います。そして、その様子を「いぶき」を通じて皆様に伝えていきたいと考えていますので、ぜひ「一読ください」。